

信徒(教会)の決断(ルカ 11:37-52)

年の終わり、この頃になりますと、多くの人が1年を振り返って、後悔ばかりする場合があります。中には後悔するよりは忘れた方がいいよと思って、忘年会に走る人もいます。また、中には今年のそのような後悔をバネにして、来年こそと覚悟を決めて、新しい年に希望を見る人もいます。しかし、残念ながら、それが毎年同じく繰り返されるものなのです。来年こそと思ったのが去年も同じで、今年も結局そういうことになってしまいます。そういう時期に、クリスチャン、信徒の私たちはどのような心構えで年末を過ごすべきなのでしょう。今年1年間振り返って見ても、個人的にさまざまな問題があり、社会的にもいろいろなニュースがあり、世界を見ても災難、戦争の噂、また犯罪のニュース等々、さまざまな出来事がありました。それは嬉しいニュース、明るいニュースよりは、悲しい、暗いニュースの方が多かったと思われます。毎年同じなのですが、そのような1年間を振り返りながら、最後のこの時期に、クリスチャンの私たちはどのような心構えでこの年末を過ごし、新しい年を迎えるべきなのでしょう。私たちは後悔ばかりしてもいけないし、また忘れようということでもいけません。また、来年こそはということも実はふさわしくありません。望ましいことではありません。1年間を振り返って、クリスチャンの私たちは信徒として、また教会としての覚悟を改めないといけません。他の人は見る事ができない、知ることができないことに気づかなければなりません。

1. この世(現場)は絶対解決不可能な霊的問題の中にいることを改める。

その第1が、なるほど、今年1年間も、だから来年もこれから、目に見えない悪魔サタンは、この世を、現場を絶対解決不可能な霊的な問題に閉じ込めてダメにしてるんだということを、この1年間、振り返りながら、クリスチャンの私たちは改めないといけません。

それがクリスチャンです。他の人と一緒になってはいけません。クリスチャンはそのような目を持たなければいけません。良いことも悪いことも、また思い通りにうまくいったことも、予想だにしてないさまざまな出来事に出くわしたことも、いろいろなことがあったでしょうけれども、クリスチャンの私たちは、やはり悪魔サタンはこの世界を、私が今いるその現場を、絶対解決不可能な霊的問題に閉じ込めているんだ。それで人々を滅ぼしているんだということに気づいて、心を改めないといけません。覚悟を新たにしなければなりません。

1) エペソ 2:1(神様を離れ、罪の中に、サタンの奴隷)

1年間振り返って、さまざまなニュースや噂を見ながら、また自分自身を振り返って、自分の家族や現場のさまざまな人々を見て、やはり人々は神様を離れて、そのたましいが罪と罪過の中に死んでいたものなんだ。みな自分なりに頑張っているいろいろな工夫をしているけれども、神様のことを全く知らないで、神様を離れた結果、罪の中に閉じ込められていて、だから仕方がなく目に見えない悪魔サタンの奴隷になっているのだね。絶対自分の力では抜け出すことができません。解決不可能な問題に閉じ込められているわけです。そのことをクリスチャンの私たちはこの1年の最後に、また2025年、新しい年を迎えるこの時に、しっかり整理して自分の心の中に編集しなければなりません。こういうことも、ああいうことも、いろいろなことがありました。それが何を私たちに示しているのでしょうか。やはり人々は、たましいが死んでいるのだね。だからいくらもがいても同じことの繰り返しなのだね。科学が発展して技術が進歩しても変わらないんだ。何も解決にならないのではないのか。そういうことに気づかなければなりません。そうでないと、来年の新しい年もクリスチャンとしての祝福を味わえないまま、クリスチャンとしての特権とプライドを誇示できないまま、1年間そのまま流されてしまうことになります。本当に皆さん、世界を見渡して、自分を振り返って、周りの現場をしっかりと見つめて、こういうことに気づいていたのでしょうか。遅くありません。今でも、2024年が終わる前に、ぜひ気づいていただきましょう。

2) エペソ 2:2(宗教、偶像、シャーマニズム、思想)一国家、家系、家庭の背景

だから人々は、自分がそういう風に願うか願わないか関係なく、悪魔サタンが作り上げたことも知らず

に、世の流れに従ってみな流されているのだね。神様に会うこととは、正反対の方向に、地獄に向かって悪魔に従う人生を生きるしかないのだね。だから、みな宗教にはまり、偶像を拝み、シャーマニズムや占いなどに頼り、また思想やイデオロギーなどを主張しながら、そこにのめり込んでしまったり、それでどうにかしようともがいてるのだな。そういうことを見ながら、やはり人々のたましいは死んでいるのだな。悪魔サタンの奴隷なんだな。そのようなサタンが作り上げた世の流れ、つまり霊的な背景というものに囚われるしかありません。それが 国家の背景となり、その人の家の家系の背景となり、またその人が生まれた家庭の背景になっていて、それがその人にそのまま流れて届いてるわけです。宗教は単純な宗教ではありません。サタンに従うことなのです。その霊的な目に見えない背景の力が、その流れが、家系を通して、家庭を通して、その人に流れ届いてきてるわけです。そういうことなんだな。だから皆、苦しい人生を送るしかありません。生まれながら神の御怒りを受けるしかないのだな。誰かのせい、何かのせいという前に、もう生まれながらあのようなになるしかない運命を抱えて生まれてきたんだなと。それも知らずにいつも人のせいにしたり、何かのせいにしたり、つぶやいたり、不満不平ばかり言っていたり、人生が狂ってしまうわけです。自分ではどうにもならない霊的問題、解決不可能な問題、たましいがもう死んでしまったので、悪魔に操られるしかありません。

3) エペソ 2:3(身分、精神、心、肉体、死とさばき、子孫) 魔が作り上げたその枠の中に閉じ込められるようになってしまい、生まれながら、あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であると言われる悪魔の子どもとして生まれるわけなのです。どんな希望、何の希望が人間にあるのでしょうか。誰もわかっていません。だから、生まれたその時から、赤ん坊の時から、まだそれが表に表れていないだけであって、その人間の精神的な状態は基本的に混沌なのです。分裂の状態です。神を離れていて、神様と遮断されている状態なので、不信仰というのが精神の基本的な状態であり、だからその精神の心の中にはいちばん根っこの方にいつも不安を抱えて心配をするしかないし、恐怖の中で恐れの中で生きるしかありません。なので、人間はそのような精神的な状態で対策を立てないといけません。いつも頭でどうすりゃいいか、こうすりゃいいかと対策を立てることに精一杯なのです。それでどんどん精神が蝕まれることになり、心の中は神を離れてしまったので大きな穴が空いていて空しい状態、空っぽの状態なのです。なので、それを知らずに無意識にそこを何かで満たさないといけない、何かで埋めないといけないので執着に走ることになるわけです。人を愛せるかのように見えていても、実は執着なのです。一生懸命働いているかのように見えてても、仕事に執着して、お金に執着して、愛情に執着するしかありません。それが人間の精神の状態なのです。しかし、それがうまくいかないの、自分の願い通りに満たされないの、それがエスカレートしていきますと依存症の方までいきますが、その前に恨みづらみ、妬み、嫉妬などに走るしかありません。それが人間の生まれながらの精神の状態です。生まれながら精神的におかしくなるしかない状態で生まれて、何かのきっかけによって、それが表に症状として現れるだけなのに、いじめによって、虐待によって、また振られたことによってあの人はおかしくなったと皆そう思うでしょうけれども、生まれながらそういうことを抱えて生まれるわけです。クリスチャンの私たちは、1年のこの最後の時に、そういうことをしっかりと整理しながら自分の心の中に編集するようにしましょう。だから、イエス様がおっしゃいました。みな幸せになるために一生懸命頑張って、これが正しいよ、これが正義だよといろいろ学んで頑張りますが、疲れて重荷を負うしかありません。そういう精神の状態なのです。だから精神そのものがもう分裂の状態なのです。それが結局は肉体に、その人の人生そのものに症状として現れて、例えば依存症に、あるいは家庭のさまざまなトラブルに。それは単なるトラブルではありません。今申し上げましたように、根本的な霊的問題から、その人が生まれた時からそのような精神の状態なので、それが症状として現れるだけなのです。経済的なさまざまな問題、また病気、病として、子どもの困ったさまざまな問題として、また自殺を図ったり自殺をしてしまったりというような、私たちが見てわかるような症状として現れることになります。つまり、暗闇に完全に閉じ込められることになってしまいます。なぜなのでしょう。神様を離れて、生まれながら、あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であるからなのです。自分のことがそうだとなかなか認めたくないでしょうが、ここにいらっしゃる皆さんが元々これが私のことだったと素直に認めることがなければ、イエス様を信じますよと言いながらも、それは信じることにはなりません。また、信じたとしても何の力も現れません。やられっぱなしのクリスチャンになってしまうわけです。そのような虚しい人生を送って、結局は人間は1度死ぬことと、死後には裁きを受けることが定まっている。死んで必ずさばかれて、さばかれた後は、永遠の地獄に落ちる

しかありません。そのような運命の中を生きていくようになり、これが自分で死んで終わるのではなくて、子孫3代4代までに遺産として受け継がれることになります。財産だけを遺産として残すわけではありません。目に見えない霊的遺産を子どもたちにそのまま残すことになります。特に先祖祭り、供養、韓国語ではチェサ等々のことを通して全部受け継がれることになります。みな先祖祭りは、先祖に対して、死んだお母さん、お父さんに対して良かれと思ってやっているのですが、親にあったのろいのすべての運命を私が引き継いで生きていきますよという行為なのです。それも知らずに、みなそのように現場を生きているわけです。だから人々は鬱の状態になるのが当たり前で、それが少し行きますと統合失調症のような症状になり、パニック障害や対人恐怖症、それがエスカレートしていきまると、何かが聞こえてきたり、何かが見えてきたり、最終的には完全に悪霊に取り憑かれることにもなってしまいます。そうならなくても、基本的にみな同じなのです。それが症状としてどこまでどのように違うのかということの違いだけであって、基本的には同じなのです。改めてクリスチャンとして、この世界、そして現場が、サタンによって解決不可能な霊的問題によって閉じ込められて滅びているんだということに気づいていなければいけません。それでクリスチャンとして、だから私が存在してるのだね。だから私がそこからキリストによって救われて、先に救われて、そこに遣わされるものなんだ。自分の存在の意義を改めることになります。それなしでいくら勉強したって、いくら仕事を頑張った、いくら自分の専門分野を磨いたとしても、それが何の益になるのでしょうか。もっと正確に申し上げると、こういうことを知らずにうまくいったとなれば、それが逆にマイナスになるのです。そういう世界なのです、この世の中は。霊的な存在、霊的な世界がなければ、そのまま私たちがこの小さな頭で考える数式、計算通りでしょうけれども、申し訳ありませんが、私たちの筋書き通りにはなりません。悪魔が存在しているし、私たちは自分でも気がつかないで、生まれながら滅びる運命を抱えて生まれてくるわけです。ぜひクリスチャンの私たちが、このような問題を正しく理解して、まず自分の人生を正しく整理して編集しないといけません。未だにクリスチャンがいじめのせいだ、親のせいだ、私が弱いから、環境がこうだったのだと思っていることは、全く何も分かっていないことではないでしょうか。誰かのせい、何かのせいではなくて、生まれながらそうならざる得ない状態で生まれてきたわけです。誰かのせいにしないように。

4) 唯一の答え、キリスト

このことが本当にわかったときに、だから、この世界に、現場に必要な答え、解答は1つしかないんだ。唯一の答え。だから、神様はキリストを送ってくださったのだね。悪魔のしわざを打ち壊すことでなければ希望はありません。答えはキリストしかありません。それを改めるのが年末なのです。もちろん1年中、24時間、常に覚えていないといけないうしょうけれども、特に年末、人間のいろいろな模様が見える、また聞こえる時に、一緒に惑わされないで改めるそういう時にしましょう。唯一、キリストのほかに希望はありません。その時に、なるほど、お父さん、お母さんは大事なのですが、お父さん、お母さんが、またその愛情が、私のこの問題を解決する答えにはなりません。だから、キリストとお父さん、お母さんの愛情を一緒に並べることなどしてはいけません。キリストは絶対価値なのです。教育は大切なもののなのです。私たちが努力することも大切なのです。しかし、どのような教育も知識も、この問題が本当にわかれば、この問題には1ミリも役に立たないことがわかるので、キリスト Only なのです。なにものともキリストを比べることができるのでしょうか。なんのゆえにキリストを曖昧にして、キリストから離れることができるのでしょうか。ありえません。知らないからです。律法はとても大切なのです。道徳、ルールも大切です。常識も大切です。しっかり守らないといけません。しかし、明確にしないといけません。その律法や道徳、ルールなどが、この絶対解決不可能な人間の問題に対して1ミリも役に立たないことを認めないといけません。だからキリスト Only なのです。もしキリストと愛情とが対立する場合は、1秒も迷わずにキリストを握って愛情を捨てるわけです。それがクリスチャンの覚悟です。何によって皆さんが惑わされるのでしょうか。惑わされるべきものは何があるのでしょうか。もし自分の知識と才能と職業とキリストとが対立することになった場合には、0.1秒も迷わずにキリストを握って、そのすべてを捨てるわけです。もし自分の肉の命とキリストが対立するようになった場合には、1秒も迷わずに死を選んでキリストを握るわけです。それがキリストなのです。でも、なぜキリストが私たちにとってそのような価値ではないのでしょうか。パウロは言いました。四方八方か苦しめられても、窮することはありません。なぜなら宝のキリストが私の内側にあるから、キリストが私のものである限り、どんな迫害も、どのような苦しい状況でもキリストを奪うことはできません。キリストと変えられるものはありません。それ

を 2024 年、最後のこの時期に、クリスチャンとして本当に集中して改めないといけません。そうでないと、結局、教会に通いながらも、他の人と何の変わりもない人生を送るようになってしまいます。でも、それは他の人と変わりのない同じ人生を送るわけではなくて、クリスチャンなのに失敗の人生を送るわけです。なんと残念な、またもどかしいことでしょうか。なので、2025 年は、本当にすべてを新しく編集して、今までとは違う新しい年をスタートすることができるように、このようなことを整理して編集しましょう。何がそんなに偉いのでしょうか。何がそんなに偉大で、何がそんなにこだわりなののでしょうか。

2. 教会が違うことにこだわるようにサタンが惑わしていることを改める。

それからもう 1 つ。サタンは、教会だけがこの現場、世界に対して答えを与えることができる、光を照らすことができる唯一の機関なのに、それをよくわかっていて、教会がキリスト以外の違うことにこだわるように惑わしているのだなということを改めないといけません。

教会だからといってみな教会ではありません。サタンは見事に教会がいろいろなことに熱心で、いろいろなことをやりながら、とにかくキリストではない、違うことにこだわるように惑わしているのだなということをよく考えなければなりません。それがこの世界であり、現場のことなのです。今日の聖書を見ますと、パリサイ人が食事を一緒にしましょうとイエス様を招いていたときに、イエス様が普段の彼らの儀式、手を洗って食べる、衛生のためではなくて、そのすべてが全部キリストを表すものなのです。その説明の時間はありませんが、とにかくみなが当たり前にやっていることをしないで食卓につきました。それでびっくりするのを見て、イエス様がおっしゃいました。パリサイ人、わざわざだ、わざわざだ。こんなにわざわざだということを連発するのはなかなか見られません。つまり、これが当事者パリサイ人と律法学者たちは、あまり意識していないでしょうけれども、これほど深刻な問題だということでしょう。

1) 外側を清める

それでイエス様は、おまえたちは器の外側を清めることにこだわっているのですが、内側はダメじゃないのか。今申し上げました人の霊的な問題が本当にわかっていれば、どこにこだわるのかと言いますと、キリストのいのちにこだわるはずなのに、キリストが抜けたまま外側を清めることにこだわるように、つまり、人間の行いにこだわるように、正しい人間になり善良な市民になることにこだわるように、それは悪いことではありませんがキリストが抜けたまま、それにこだわるように、それがまるで教会がやるべきことであるかのようにさせてしまうのです。それが悪魔のしわざなのです。一般の人から見ると、すぐに共感できるから良い教会だなと思うかもしれませんが、でも、イエス様がいま指をさしておっしゃっているのは、怒りを露わにしているのは、1 番で申し上げました霊的な問題、本当の人間の問題は全く分かっていないままだから当然な結果でしょうが、外側を清めることに、それを宗教と言います。教会がそういうことにこだわるのです。そうすると教会に集まっていた人々も理解しやすいから、「なるほど、そうなのだね。良い人間にならなくちゃ。しっかりしなくちゃ。行いをちゃんと正さないと」ということにこだわるのです。別にそれは悪くないのですが、キリストが抜けているので、それはキリストに敵対する方向にいくわけです。結局は。悪魔の狙いでありしわざなのです。

2) 形式に頼る

それから、こう言うと、あなたがたはさまざまなものをもって 10 分の 1 を捧げているんだ。10 分の 1 が悪いわけではありません。捧げなくてもいいということでもありません。あとで、イエス様がおっしゃいました。ちゃんと 10 分の 1 も捧げないといけないのですが、彼らはその形式、決まりというものを守ることで成立すると思っているのです。それで神様にやるべきことをやったと、信仰生活をやったと思うわけです。それに、形式、その決まり、しきたりというものが役割をしていたわけです。キリストが抜けた礼拝、キリストが抜けた祈り、キリストが抜けた献金、キリストが抜けた 10 分の 1 などで満足しているのです。それでやったと思わせるわけです。人の解決不可能な霊的な問題が分かっていると、そういうことで済ますしかありません。そういうことで評価するしかありません。皆さん、お寺に行って、神社行ってみてください。1000 万払った塔みたいなのがあって、ここは 200 万円のものがあるって、お辞儀を何回したかによって評価される。全部宗教と偶像と同じなのです。ただ彼らは気づいていません。なぜなら良かれと思って自分では正しいことやっているつもりなのです。神様に受け入れられた、神様がおっしゃ

った通りにやったつもりなのです。ただ1番で申し上げました絶対解決不可能な霊的問題に気づいていない場合は、そうならざるを得ません。それが悪魔のしわざなのです。彼らは1ミリも悪魔のしわざだとは思っていません。夢にも思っていません。イエス様はそれに対してわざわざだとおっしゃっています。ここにはいらっしゃらないでしょうけれども、もし万が一、レムナント教会の拝に出席していながら、もしそういう感覚があったとすれば、今日限り悔い改めて、それは神様と1ミリも関係ありません。いくら真面目に一生懸命、誠意をもって礼拝を守って献金を捧げたとしても、全く関係ありません。世の中に唯一の答え、キリストを伝えるべき教会がキリスト以外のこういうことにこだわるようにされています。

3) 祝福の基準を肉的なものに

それから、43節を見ますと、お墓の内側がもう腐っているのに誰も気づかない。普通に大丈夫だと思っている。内側が見えないから。そのようになっているのだと。その前に43節にこれも書いてあります。パリサイ人、おまえたちは市場や会堂などで上席に座ることと、人々に拍手されることなどが好きなんだなと。これは単に幼稚な意味で偉そうにやってるなという指摘とは違います。彼らはそれを悪いと思ってやっているわけではありません。しかし、人の絶対解決不可能な霊的問題が何か分かっていないと、結局は肉的な祝福が祝福の基準になります。なので、彼らは上席に偉いところに、みなに認められること、それに祝福の評価をしようとしているわけです。何を食べるか、飲むか、着るかが基準なのです。別に人の上に立って認められることが悪いわけではありません。しかし、それが祝福の基準なのです。なぜ成功しようとしていらっしゃるのでしょうか。なぜ一生懸命頑張るのでしょうか。後でまた申し上げる機会があるでしょうが、クリスチャンは、誰かさんと出会って結婚したから幸せになったという表現はアウトなのです。クリスチャンは幸せなものとして結婚するわけです。何かの問題にぶつかって、その問題を解決のために祈るものではなくて、すでにすべての問題が終わったものとして問題にぶつかるわけです。朝起きて、自分は何ものにも奪われることのない、キリストによる天にある完璧な祝福の主人公、だから私は現実や状況に関係なく幸せなものだということに集中して、そのやぐらを立てて1日を始めないといけません。だから幸せなものとしていろいろな人にぶつかるわけです。この人に会ったから幸せ、この人にあったから不幸になる存在ではありません。なのに全部肉的なものを基準にして評価するように悪魔サタンは教会を惑わし、信徒を惑わしてるわけです。

4) 教理的包装

それから、お墓をきれいに飾って、内側は腐っているのに見えないから誰も気づかない。教理で美しく包装して大丈夫だと思っているのです。教理がいらないという意味ではありません。しかし、教理的に完璧な内容を着飾って、内側には全く霊的な内容がないのにそれで安心しようと勘違いして錯覚して、それで麻痺してしまうのです。それが悪魔のしわざなのです。教会が現場に対してキリストのいのちの答えを与えることができないまま、教理で正しいものの中に私は守られているよという安心感を持たせようとするわけです。

5) 福音抜きの聖書解釈

52節では、律法学者に言います。あなたがたは聖書の鍵を持って、自分も入らず、他の人も入らないように邪魔していると。どういう意味なのでしょう。彼らには聖書が与えられています。他の異邦人たちには、まだ聖書が与えられていません。聖書こそキリストを表すいのちの書物なのです。それをいただいているのに、福音、キリストを抜きにして聖書の解釈をするように惑わすわけです。私も神学校に通いながらそういう経験をしました。後でタラッパンと出会って、その神学の教理のことをこの野郎と思いました。とにかく聖書をいろいろな論理や理論で解釈するようにして、とにかくキリストは抜けてしまうのです。キリストを何でもかんで加えると、それは昔の学問が足りない時の幼稚な解釈ですよと教えられたのです。有名なアメリカで勉強してきた神学者の教授に。世界中の教会がそのような聖書の解釈に惑わされているわけです。私は日本に来る前に、機能的聖書解釈にはまって、それをもって日本の宣教をやると決心してきました。機能的聖書の解釈は何かと言いますと、まずテーマを持ってはいけません。とにかく論理的に機能だから尻尾の方からひとつひとつ辿っていったってテーマが浮かび上がるように。私の性に合っていたのです。だいたい学問的だし素晴らしいなと思って。人間の思いを尊重するなど。それが悪魔のしわざだったのです。聖書は、私たちが辿り着いてテーマを見つけ出すものではなくて、最初からキリストとい

うテーマをもって与えられたものなのです。そのように教会を惑わすわけです。学があるものには、あるものとして、ないものはないものとして。それをイエス様がいま見事に指摘しながら、しかも私もびっくりしましたが、わざわざいだ。わざわざいだ。これはどれほど恐ろしいことなのか。悪魔のしわざなのです。

6) 真の福音への攻撃

それでこのように惑わされると、普段、神様のためにとと思って一生懸命彼らなりの基準を持って頑張るのですが、そこに絶対キリストでないといけません、Only キリストですよという聖書が本来言っている本物の福音を語られるときには、その福音に敵対して福音を攻撃する側に立つようになります。それが教会なのです。悪魔に惑わされるとそうなるのです。イエス様が殺されたのも、その流れによって殺されて、初代教会が迫害されたのも、パウロが迫害されたのも、今私たちが異端と言われるのも同じ流れなのです。必ずそうなります。必ず。なぜなのでしょう。良いことをしましょう、頑張りましょうと言っていたのに、福祉の活動にも一生懸命頑張っていたのに、ハレルヤと賛美もしていたのになぜなのでしょう。もう1度言います。彼らは気づいていないでしょうが、悪魔サタンによるしわざなのです。惑わしなのです。だからイエス様はわざわざいだ、わざわざいだとおっしゃったのです。

1年の最後のこのときに、クリスチャンとしてこのような世の中、現実を素直に向き合って整理しなければなりません。なるほど、今世界はこうなっているのだなと。その中で私が召されて、キリストによって救われて、しかも田舎の小さな教会なのですがレムナント教会と繋がり、ここに導かれて、Only、絶対、日本語もそんなに上手でない牧師がOnly、Only というところに来ているのだなと。初代教会を通して回復して、パリサイの教会を断ち切って、ローマカトリック教会を断ち切って、神様がつかないできたその流れの中で今私は召されているのだね。そういうことを正しく改めないといけません。そのような年末を過ごして、整理しながら新しい年を迎えるようにしましょう。

なので、結論で申し上げますと、今申し上げましたこのようなことを改める年末を過ごして、信徒として決断の時にしましょう。どのような決断でしょうか。ならば私は、悪魔サタンが逃げ去るように、悪魔サタンが恥ずかしくなるように、Only キリスト、絶対キリスト、キリストで十分だという信仰告白を薄っぺらなものではなくて、命がけのものとして信仰告白をする時にしましょう。

それから、心の中に改めてさまざまな問題があるけれども、問題は1つだけなんだ。唯一の問題、神様を離れた霊的な問題なんだ。だから答えはキリストだけなんだ。人の愛情、お金や頑張りなどが答えではなくて、唯一の問題。唯一の答え。これを持っている人は現場が開かれます。神様が動かされます。その人が人格的に優れているかどうかとは関係ありません。本当に皆さんがこの世界、現場を見ながら、さまざまな問題の前で唯一の問題、唯一の解答としっかり心に刻んで整理されているかどうかによって人生の時計は動き出すようになります。それを心に刻んで、Only キリスト、Only 神の国、Only 聖霊、この完成された契約の上に立って新年を迎えましょう。古いものに囚われて、後ろめたさなどに囚われて、あるいはキリストと関係ないさまざまなものに引っかかったまま新しい年を迎える、そういう残念な過ごし方ではなくて、キリストによってすべて終わりました。キリストしか答えはありません。そのキリストの中に神の国の御座の祝福があります。この世はサタンの国なので、神の国が必要なのです。そのミッションを握って、そのために聖霊の力が約束されているので、言い訳や心配など全部捨てて。これがキリストによって完成されました。私たちはここがスタートなのです。ここがスタートなのです。この契約の上に立って決心しましょう。マタイ6:31を見ますと「ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです」。それを決心しましょう。こういう心配はもうやめるんだと。マタイ6:33「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます」。私は神の国とその義を求めるんだと決心しましょう。その決心をして、使徒1:7-8の上に立ちましょう。それを握りましょう。「イエスは彼らに言われた。「いつとか、どんな時とかいうことは、あなたがたの知るところではありません。それは、父がご自分の権威をもって定めておられることです」。今まで気にして引っかかっていたこと全部を取っ払って、キリストを握って神の国と義を求める決心をして、「しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります」。聖霊の力によってカルバリ

山、オリーブ山、マルコのタラップンの祝福が具体的に自分に体験できて、そのあと神の道しるべによって宣教と癒しと転換点とローマのその道しるべに従って導かれることを信じて祈る、そういうクリスチャンになりましょう。素敵なクリスチャンとして整えられる、そのような年末になりたいと思います。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。2024年、1年間もさまざまなことの中で神様は約束通りに完璧に私たちを整えて導かれて、今日の礼拝を迎えることができました。このことを感謝申し上げます。1年間振り返って、本当に正しい解釈をして、必要な整理ができるように。それでクリスチャンとして神の国と義を求める決心ができるように。自分自身がどれほど尊い貴重な存在なのか、この世を生きるその意義などを正しく整理して新しい年を迎えることができるように、聖霊様がひとりひとりに働いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。